

B-27 「芸」としての裁縫伝授から「技術」としての裁縫教育への展開過程（第3報）

和洋女子大 永野 順子

1. 第2報（昭和39年9月の総会）のあとをうけて、大正・昭和の初期において、裁縫教育が、近代学校の技術教育の一環として、いかなる展開を示したかを考察する。

2. この目的を達成するために、以下の諸点をふまえて、資料の整理を進め、研究してみた。

(1) 大正・昭和初期の社会において、わが国民の衣生活上におこった構造的変革の過程。

(2) 大正・昭和初期の近代学校、とくに高等女学校を中心として、その教育目標やカリキュラム、教材内容、さらに、これらのうちに占めた裁縫教育の位置や性格についての検討。

(3) 裁縫教育がとりあげた教材内容の分析。とくに洋服裁縫の充実にとまなう和服裁縫への影響。

(4) 和裁教育が用いた学習指導法の分析。とくに、メートル法の採用と普及が、裁ち方、縫い方などの指導法にあたえた影響。

3. 以上の諸点をとおし、裁縫教育とくに和裁教育が、目標では近世からの伝統を色濃く継承しながらも、内容や方法は、時代の流れにそくした近代的な技術教育の性格を強くうちたてようとした過程を究明する。